



半田高校

SSH通信



Vol. **1** 2022. 5. 20 愛知県立半田高等学校 SSH 部

はじめに

本校は平成 25 年度にスーパーサイエンスハイスクール(SSH) に指定されました。第 1 期の 5 年間の成果が認められ、平成 30 年度に第 2 期を迎えることができました。昨年度は、新型コロナウイルスの影響がある中でも、オンラインによる海外交流など、今できることを見つけ、積極的に取り組むことができました。第 2 期 5 年目となる本年度は、第 3 期申請へ向けた新たな取り組みに挑戦していきます。この通信では、新たな SSH 事業を、順次紹介していきます。



参加者の声

～エンパワーメントプログラム～

2 年生 生徒

参加期間中は一日の情報量が多くて、へろへろで帰宅してすぐに寝ていたのですが、その間も誰かと英語で会話する夢を見るほど、寝ても覚めても英語漬けでした。

発見したのは、「大胆になることの大切さ」です。ファシリテーターやグループリーダーは、常に私たちにこう言うてくれました。“Don't be afraid. Mistakes are ok. Try anything.” 普段の英語学習では、正しい単語や文法を使うことが求められています。だからエンパワに参加する前はうまく話すことばかり気にしてしまっ、とても緊張していました。しかし、いざ参加してみるとそれが全くの杞憂だったことに気づかされました。コミュニケーションに必要なのは正しい英語ではなく、意思疎通を図る積極的な意欲、態度です。極端な話「出川イングリッシュ」でも良くて、とにかく口を開くこと。間違いなんて気にせず、大胆に自己主張していくことが大事だと気づきました。



講座募集①

～科学英語プレゼンスキルアップ講座～

英語によるプレゼンテーションの学習を通して、国際的な発信能力を養います。月 1～2 回程度、計 12 回。原則金曜日の 16～17 時。参加者は全講座に出席。外部講師を招き、英語によるプレゼンテーションの技能を身につけます。英語で発表できるようになるチャンスです。国際交流を希望する生徒は是非応募しましょう！



講師：日本福祉大学 全学教育センター
石田 知美 氏

初回：6月10日(金)16～17時

説明会：5月27日(金) 昼休み @視聴覚室

申込〆切：5月27日(金)

*説明会には必ず参加してください。

校内生徒限定

参加申込書

参加を希望するものに○をつけてください

(サイエンスコミュニケーション ・ 科学英語プレゼンスキルアップ 講座)

上の線で切り取って担任の先生に提出してください。右の QR コードからも申込み可能です。

〆切：5月27日(金)

() 年 () 組 () 番 氏名 ()








各種要項

* 新型コロナウイルス感染症の影響により、変更が生じる可能性があります。

各種コンテスト

	プログラム名	実施日	概要・要項の QR コード
1	全国物理コンテスト 「物理チャレンジ」	7月10日(日) オンライン試験 オンライン申込締切 5/30 ※レポート提出締切 5/31	全国規模のコンテスト。 国際物理オリンピック日本代表選考 も兼ねています。 
2	日本生物学 オリンピック	7月17日(日) オンライン試験 オンライン申込締切 5/31	マーク式の試験を受けて、上位者の中 から更に日本代表に選ばれると、国際 生物オリンピックに出場できます。 
3	化学グランプリ 目指せ！科学の甲子園	7月18日(月) オンライン試験 オンライン申込締切 6/8	マーク式の試験を受けて、上位者の中 から更に日本代表に選ばれると、国際 化学オリンピックに出場できます。 

名大主催のプロジェクト

1	名大みらい育成プロジェクト	7月～来年3月 (主に土曜日) ※これから募集	地球規模の課題について、英語も用いて講義・グループ 演習・プロジェクト型学習を行う。英検準2級程度の英 語力が必要。選抜あり。海外研修あり
2	名大 MIRAI GSC	7月～来年3月 (主に土曜日・夏休み) ※募集済み	自然科学について、英語も用いて講義・実験実習・海外 研修を行う。英検準2級程度の英語力が必要。選抜あり。

愛知県立半田高等学校

令和4年度 第1回サイエンスコミュニケーション

6月4日(土) 14:00~16:45

会場:七中記念館

受付 13:30~

講演 14:00~15:30

交流会 15:45~16:45

(交流会は自由参加)



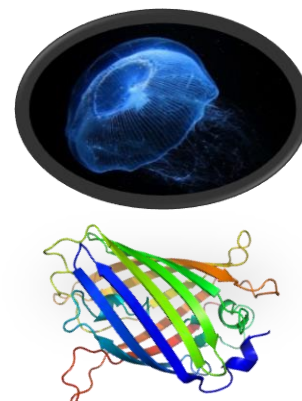
講師

山口 茂弘 教授

名古屋大学大学院理学研究科

光る分子が拓く未来

化学の圧倒的な魅力の一つは、自分で「デザイン」した分子を、世の中に実在する物質として生み出せる点にある。実際にモノを手にしたときの喜び、感動こそが合成化学の醍醐味である。再結晶でキラキラと結晶が生まれてくる姿は人をワクワクさせるし、その物質が強い蛍光を示す分子だったりすると、その光輝く姿はいつまでも飽きずに眺めていたい。そして、それが、新たな技術、新たな分野を拓く鍵になる分子であればどれほど素晴らしいか。本講演では、ディスプレイなどの未来エレクトロニクス技術、さらには生命科学分野の発展に不可欠なバイオイメージング技術を大きく進歩させられる蛍光分子を、いかに創るかについて話をしたい。



昨年のサイエンスコミュニケーションの様子